



2018

Free The Children Japan Annual report

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 2018 年度年次報告書



「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に WE Free The Children
認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

Our Story

1995年、カナダに住む12歳のクレイグは学校に行く前にマンガを読もうと新聞を手にしたところ、ある記事に目が留まりました。

「児童労働の廃絶を訴えていた12歳のパキスタン少年、射殺！」

～パキスタン人のイクバル・マシーは、とても貧しい家庭の出身で4歳のとき、両親から引き離され絨毯工場に売られてしまった。1日10時間以上の労働を強いられていたが、工場から脱出できNGOの助けて児童労働反対を訴える活動家として世界を回っていたが、母国に戻った時何者かに殺害された。～

クレイグは、同じ年のイクバルの死や、世界に奴隷のように働かされている子どもがいることにショックを受け、同じ子どもの問題なら、自分たち子どもで取組もうと「Free The Children (FTC)」を設立しました。

その後クレイグは実際に児童労働の現状を学ぶため中学1年生になると南アジア5カ国をまわる50日間の旅に出ました。そこで、マザーテレサやノーベル平和賞を受賞したカイラシュ氏に出会いました。

そして、クレイグの想像をはるかに超える過酷な環境で働くたくさんの子どもたちのことを世界に伝えるため、カナダに帰国後、旅の体験記を本にまとめたリスピーチをして世界をまわるようになりました。

現在、FTCはカイラシュ氏、マララ氏をはじめ多くの著名人と共に、全ての子どもが教育を受けられるように一緒に活動しています。フリー・ザ・チルドレンの活動は世界的に認められ、創設者のクレイグは今まで3回ノーベル平和賞にノミネートされています。

1997年、アメリカのNGOに所属していた中島早苗（現代表）がFTCとクレイグの活動を知り団体の理念に賛同し日本に紹介しようと、帰国後1999年に日本支部を設立しました。以後、日本の子どもたちが活動に参加するようになり、現在1,500人以上の子どもたちがメンバーとなって国際協力や国内の子どもを巡る課題に取り組んでいます。その活動は様々で、児童労働を伝えるためにウォークを企画し実施する子どもたち、開発途上国の働く子どもの状況を学び、支援するため手作り雑貨やお菓子を販売しその売り上げを世界の子どもの教育事業に寄付をしたり、世界の貧困問題を伝える動画を作って配信したり、支援先を訪問する海外ボランティアツアーに参加したり、いじめの問題に取り組みスピーチをして子どもの権利について訴えたり、自分の特技を活かして社会問題を解決するためのアクションを起こしています。



Our Vision

世界中のすべての人々が【誰一人取り残されることなく】社会に参加し、国籍・宗教・年齢・性別・障害の有無・文化に関係なく、違いや個性が尊重され、互いに勇気づける多様性のある社会。

Our Mission

上記のビジョンを達成するために、子どもの権利を守り、子どもの可能性を引き出すことが大切だと考えていることから

ふたつの「Free」を目指します。

1

国内外の貧困や差別から
子どもをFreeに（解放）する。



2

「子どもには世界を変えられない」
という考えから、
子どもをFreeに（解放）する。



A note from Chairperson of the Board

代表挨拶

2018年度のハイライトは、前年度に決定した2020年までの3年間で重点的に取り組むべき事業と目標に沿って、具体的な活動に落とし込んで事業に取り組んだことで、新たな組織や個人の方々と出会い繋がれたことです。そういった新たな連携を通じて、カナダのフリー・ザ・チルドレンが2007年にトロントで始めた“WE Day”を2020年以降に日本で開催できるよう、学校などで子どもが社会問題を知り、それに対してアクションを起こしていくことをすすめる教育プログラム“WE Schools”の開発と、WE Dayへの準備をすすめることができました。特に、鳥取城北高校と繋がり連携できたことで、WE Schoolsの授業モデルを実践するなどできました。

重点事業の一つ、子どもが主体的に社会課題に対して向き合えるような機会の創出を強化するために、スタディツアーや、キャンプの運営、出張授業活動に注力し、新たにその担当として福井雄一を7月より専従職員として迎えました。

また、国内で障害者支援に取り組む様々な組織や活動家の方と知り合い、ご協力を得たおかげで、2016年から開始した「フィリピン障害者支援事業」や、「共生社会推進事業」として、フィリピンから視覚障害者の高校生5人を招聘し、活動家として育成する取り組みを実施することができました。

更に、団体設立初期から活動にご協力下さっている桃山学院高校の元校長で現一般社団法人 OSAKA あかるクラブ理事長の温井史朗先生の紹介で、「東京グレートサンタラン」という新しいイベントの運営に団体として関わることができ、イベントの企画に子どもやユースメンバーが関わる機会を頂いたり、団体が支援するケニアの農村貧困地域の子どもの医療事業に向けた資金調達に取組んだりすることができました。この東京グレートサンタランを通じて、普段なかなか知り合うことができない、イベント運営のプロフェッショナルな方々と知り合うことができ、多くの学びがありました。

2018年度を通じて本当に多くの出会いがありました。知り合うことができました様々な方面の専門家や組織の皆様との関係を大切に、そういった方々からの学びを活かしながら、更により良い活動と組織運営に従事していきたいと思いました。

改めて、活動にご協力くださった多くの皆様に心より感謝申し上げます。持続可能なより良い社会の実現に向け、今後も引き続きどうぞ宜しくお願い致します。

代表理事 中島 早苗

TABLE of CONTENTS

もくじ

2	フリー・ザ・チルドレン・ジャパンとは		
4	A LOOK BACK AT 2018	11	自立支援事業
	ー 2018年度を振り返る	14	会計報告
5	子ども主体事業・子ども活動応援事業	15	ご支援・ご協力いただいたみなさま・メディア掲載
9	アドボカシー事業		

A LOOK BACK AT 2018

たくさんの方々のご支援によって、国内外の子どもたちへの支援を行うことができました。みなさまからの温かいご支援、心より感謝申し上げます。

Members

新規メンバー登録数：
223 人

メンバー合計：1,137 人
(2018 年 12 月末)



好きなこと×国際協力。

自分の好きなことや特技を活かして、全国でメンバーが活動しました。



▶子ども主体事業・子ども活動応援事業

Take Action Camp

テイク・アクション・キャンプ in カナダ

実施日時 7/29-8/13 受益者数 9人 実施場所 カナダ

子どもや若者を対象にした合宿型リーダーシップトレーニング・プログラム「テイク・アクション・キャンプ」。子ども達自身が、「子どもには世界は変えられない」という考えから脱し、子どもや若者が社会問題や国際協力活動に取り組むためのやる気とスキルを習得できるようなプログラムです。

7/29～8/13にトロントで実施している Take Action Camp に日本の子どもや若者が参加できるよう企画運営を行っています。前半1週間を、カナダのトロントにある語学学校（EF）で英語の勉強をし、後半1週間は、フリー・ザ・チルドレン（WE）の社会問題×リーダーシップキャンプ（Take Action Camp Ontario）に参加。日本からは高校生9名が参加しました。前半の語学学校では、文法やスピーキング・リスニング、映画を見て表現を学んだり様々な形の授業を受け、授業後には買い物やご飯にでかけたりしました。

後半は、いよいよテイク・アクション・キャンプに参加。60人以上のカナダ・アメリカ人の参加者・スタッフと合流。自分自身を振り返るワークショップを行ったり、チームのみんなでダンスを作ったり、年齢関係なく、色別に分かれてチームワークを競い合う活動では、とにかく走って走って、頭も使って、大騒ぎしながらも、みるみるうちに、さっきまでは「知らない人」だった人が大好きな友達になっていっていました。

なかなか英語でディスカッションをするのは大変ですが、それぞれ、試行錯誤しながら、自分の考えを伝えるべく努力しています。キャンプの最後には、自分自身が興味のある社会問題に対してアクションを考え発表しました。



参加者の声

最初はネイティブの子達と喋ることは自分にとってはほんとに難しく、わからないのと伝えられないことがとても辛かったです。でもネイティブの子達は優しく、わからないといえは易しい単語で教えてくれたり、伝えようとしていることを理解しようとしてくれたりしたのでキャンプの後半は辛いと思うことはありませんでした。言葉の壁と人の優しさに触れられたと思います。カナダの人たちの考え方とか文化の違いにも触れられたと思うので、とてもいい経験になりました。（参加当時 高校2年生）

テイク・アクション・キャンプ in ジャパン

実施日時	春 3/27-31	受益者数	107人	実施場所	春 千葉県立東金青年の家
	夏 8/16-21				夏 国立中央青少年交流の家
	冬 12/25-27				冬 川崎市青少年の家

Take Action Camp Japan の企画実施。日本にいる子どもや若者が社会問題を知り、その解決に向けて自らがアクションを起こし、より良い世界のために活動するためのノウハウを学ぶ合宿型ワークショップ。

今年度初めてのクリスマスキャンプを開催した。夏はゲストスピーカーとしてベナンからソーシャルビジネスの現地マネージャー、またフィリピンから視覚障害者リーダーを招致。春は2泊3日、夏は4泊5日で実施しました。



参加者の声

今回、このキャンプに参加して自分の事についてよく知ることができました。主に自分達のスモールグループで自ら行ったグループワークでは自主性と共に他者意識、他者理解、自己理解をする事ができました。そして、スモールグループや、部屋班での交流で様々な環境から来た人と友達になることができ、様々な視点も得る事ができました。（参加当時 中学2年生）

Youth empowerment

子どもたちのやってみたいという気持ちを引き出し、社会問題を解決するために行動する子どもたちの育成やサポートをしています。

チーム活動

実施日時

通年

受益者数

チームメンバー 20 人

実施場所

主に事務所

活動チームに所属する子どもメンバーに、グループの運営・企画サポートを実施しました。

【活動チーム】フィリピンチーム（チョコレートプロジェクト）、スピーカーチーム、フェアトレードチーム

フィリピンチーム（チョコレートプロジェクト）では、価格の60%がフィリピンミンダナオ島の支援につながるチャリティーチョコレートを中学生が主体となり、デザイン、パッキング、販売を行いました。



<左>チョコのパッキングしている様子。



<右> イベントでの販売の様子。



新聞などのメディアで掲載いただきました。

参加者の声

全てがスムーズにいくわけじゃないからこそ、達成した時の嬉しさは大きかった。プロジェクトの最初から最後まで活動することや、実際の販売の経験は貴重だと思う。はじめは興味を持ってくれないでも、一生懸命話したら真剣に話を聞き購入してくれた。活動を通じ、プロジェクトメンバーやフリー・ザ・チルドレン・ジャパン事務局スタッフ、お客さんやご協力いただける方など、本当に沢山の素敵な人達との出会いがあった。この出会いだけでも、参加の意味はあると思う！学校で経験できない事が沢山あるので、ぜひみんなにも挑戦してもらいたいです。Aさん（当時 高校3年生）

メンバー活動サポート

実施日時

通年

受益者数

全国のメンバー 1,500 人

実施場所

主に事務所

5年生になったタイミングから子どもメンバーとして様々な活動をしている現在小学6年生の坂口くり果さん。昨年秋に、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンと昔オフィスもシェアしていた同じく児童労働廃絶と子どもの権利の重要性を訴える、「認定 NPO 法人国際子ども権利センター」の20周年イベントに、スピーカーとして坂口さんを含めた子どもメンバー2人が登壇させていただきました。

その際に、「子どもの権利条約を母子手帳に掲載してほしい」と訴えた坂口さん。その後、坂口さん自身、見識者の方へ相談したり、なぜ今の世田谷区の母子手帳には掲載されていないのかも調べたりしてきました。その経過も経て、まずは自身が住む世田谷区の母子手帳に掲載をしてほしい！という思いが強まり、世田谷区議会議員の風間ゆたか氏への相談を経て、保坂区長の訪問が実現しました。

「自身が予防接種するときに、ふと見ていた母子手帳。小さい頃は存在も知らなかったけれど、予防接種のタイミングで見ることができると、興味も持てる。児童虐待や児童労働などがなくなるように、（親が）捨てずにずっと使われる母子手帳にこそ、子どもの権利条約を載せるべきだと思う」

自身の考えてきたこと、どのように載せるといいのか、ということもノートにまとめて、保坂区長へ掲載の希望を伝えました。母子手帳は自治体ごとに発行しているとのこと、区議会議員の風間氏が世田谷区議会でも取り上げてくださることになりました。これをきっかけに、世田谷区だけでなく日本全国の母子手帳に、そして、世界に広がりつつある「母子手帳」に子どもの権利が掲載され、まずは多くの人々が子どもの権利の存在を知り、子ども自身も子どもの権利を主張できる世界になれば、と意気込む坂口さんでした。



Study tour

スタディーツアー

春・夏休みに観光ツアーでは知ることの出来ないような現地の方々の生活を体験し、日本の生活が当たり前ではないという世界の現実を体感するスタディーツアーを行っています。現地ではボランティアや現地の人々・子どもたちとの交流だけでなく、学びを深めるディスカッションやワークショップも実施しています。

フィリピンスタディーツアー

実施日時	2/6-12、4/1-7	受益者数	26人	実施場所	フィリピン
------	--------------	------	-----	------	-------

日本の子どもや若者などが、FTCJが支援するフィリピンの事業地や歴史的地域を訪問し、行政や民間の働きを見学したり、子どもや地域の人々との交流やボランティアを通じて、現地の状況を多角的に学び、国際協力として自身には何ができるかを考える機会を提供しました。今年度はノートルダム女学院高校のオリジナルグループツアーも実施しました。

- DAY1 成田発→フィリピンマニラ着→オロンガボへ車で移動→ブレダ基金(現地NGO)ゲストハウス
- DAY2 ブレダ基金とフェアトレードについて、先住民族(アエタ族)コミュニティ訪問・交流、ホームステイ
- DAY3 先住民族コミュニティで交流、虐待から救出された少女保護施設訪問
- DAY4 フェアトレード生産者訪問、刑務所や路上から救出された少年保護施設訪問・交流
- DAY5 マニラへ車で移動、国立盲学校訪問、マニラでショッピング
- DAY6 マニラ観光、スラム地域訪問・子どもたちと交流、
- DAY7 自由時間、午後フィリピン出発→成田着



参加者の声

とても刺激的な経験になりました。空港を出たところからもう私の知っている世界とは全然違う世界で驚きの連続でした。どうすれば、もっと安心して毎日を過ごしたり、広い世界を知ることができるのだろうかということを何回も考えさせられました。ツアー中にその答えは出なかったし、帰国した今もまだその答えを見つけることは出来ていませんが、そうやって必死に解決策を探るような種を見つけることが出来たことが大きな収穫だと思うし、このことについてこれからもっと深く考えて行けたらいいなと思います。とにかくこのスタディーツアーで新しく知ること、得るものが多く、そして大きく、本当に刺激的で楽しい、思い出に残る経験ができました。今後も私ができるところをすこしずつ見つけて、実行して行けたらいいなと思います。(参加当時 高校3年生)

インドスタディーツアー

実施日時	8/8-15	受益者数	12人	実施場所	インド
------	--------	------	-----	------	-----

夏休みに、インドの支援先のラジャスタン州や観光地域を訪問し、現地の子どもや地域の人々との交流、ボランティア活動を行うツアーを実施し、貧困の中で生きる子どもの現状や村の自立に向けて学び、日本にいる私たちに何ができるかを考えるツアー。帰国後に報告書作成や報告会を通じて、現地の様子を伝える活動を行いました。

- DAY1 成田空港集合→インド・デリー空港着→ホテルへ
- DAY2 アグラへ車で移動、世界遺産タージマハルを観光、観光後、デリーのホテルへ移動
- DAY3 デリー→ウダイプル着車で宿泊施設へ移動、支援プロジェクトについてのオリエンテーション、アクティビティ
- DAY4 ヨガレスン、コミュニティでの開会式と交流、インドの歴史や文化・人々の生活について学ぶ、アクティビティ
- DAY5 ヨガレスン、学校建設やガーデニング 修繕ボランティア、アクティビティ
- DAY6 ヨガレスン、コミュニティで交流、ボランティア、インド文化を学ぶ、アクティビティ
- DAY7 ウダイプルの街を観光、空港へ移動 デリー発
- DAY8 帰国(成田着)



参加者の声

今回、このスタジアで発展途上国であるインドの子供たちと交流することで発展途上国は全く別の世界ではないということをととても強く感じました。今まで発展途上国支援のボランティア活動をしたことはありませんでしたが、実際に現地に行ったことがなく本当にその支援で喜んでくれる人がいることを実感できませんでした。しかし、実際に支援を受けた学校に行ったとき元気な子供たちがたくさんいて、また、その子供たちがフリーザチルドレンの支援を受けて学校に来れているということに感動しました。日本でボランティア活動などを行っているだけだと本当に現地の子どもたちにつながっているのか不安になったりしますが今回のスタジアでこのようなことを実感したおかげでこれから積極的に国際支援にかかわっていきたいと思いました。とても実りある1週間でした。本当にありがとうございました。(参加当時 高校1年生 Mさん)

Net Working

様々なセクター、組織と連携・協働しネットワークを構築することで、FTCJのビジョン、ゴールを実現することを目指しています。

JNNE/ 世界中の子どもに教育をキャンペーン

実施日時

4月～7月

受益者数

5,152人

実施場所

全国、主に東京

4月14日～6月30日にかけて途上国の教育の現状や教育援助の不足について学ぶ授業が実施され、47都道府県の583校・グループ、5,118人が参加しました。

6月6日、衆議院第一議員会館で、9年目となる「国会議員のための世界一大きな授業」を開催した。当団体のメンバーの高校生7名が「先生」となり国会議員24名に対して、途上国の子どもの教育をテーマに授業を行った。JNNEからはNGOの提言などを伝えました。

8月13日、JNNEのメンバーと中・高校生は外務省で、松浦博司NGO担当大使（国際協力局審議官地球規模課題担当）と面会し、全国の「世界一大きな授業」参加者から寄せられた「首相・外務大臣への手紙」を手渡し、途上国の子どもたちへの教育援助増額を申し入れました。また、2019年にはG20が日本で開かれ、政府と市民社会・NGOとでしっかりと教育の問題をアピールしていきましょうと話しました。



CL ネット（児童労働ネットワーク）

実施日時

5月～7月、12月

受益者数

729,064人

実施場所

全国、主に東京

5月5日～7月15日にかけて「ストップ!児童労働キャンペーン2018」を開催。情報発信はFacebookやTwitter等のSNSを中心に行いました。また、レッドカードを掲げて写真を撮影し、同時にアクションを表明する「レッドカード+!アクション」と名称を変え参加を呼びかけ、参加者は5,405人となった。368枚の写真がTwitter、Facebook、Instagram等のSNSを通して日本全国から投稿がありました。

3月上旬から6月末まで日本政府へ児童労働問題に対する取り組み強化を要請するため、ストップ!児童労働50万人署名～児童労働のない、2020東京オリンピック・パラリンピックに～を実施。72万3,619筆が集まりました。児童労働問題解決に向け、政府・企業・市民社会がどのように取り組むべきか検討するため研究会を実施しました。



Speaker and Workshop

出張授業・講演会・ファシリテーター養成プログラム

全国の学校や企業、イベントなどへファシリテーターを派遣し、生徒などの参加者の方々が社会問題を身近に感じ「自分は無力だ」という考えを捨て、「自分にもできる」という自分の可能性に気づくことのできるプログラムを提供しました。また、出張授業に同行するファシリテーターの育成にも取り組みました。

実施日時

1月～12月

受益者数

8,948人

実施場所

全国114回、73カ所訪問

PICK UP ①

鳥取城北高等学校で連携授業を開始しました。



フリー・ザ・チルドレン・ジャパンでは、この度、鳥取城北高等学校と新たに連携授業“WE World Changer Program”を開始しました。このプログラムは、世界ではどんな問題が起きているかを知り・考えるだけで終わらず、自分ができるアクションを見つけ、計画を立て、実施し、その内容を振り返ることまで行う、『サービスラーニング型』の授業となっています。

第1回の授業は、以下の内容を実施しました。

- ・WE WORLD CHANGER PROGRAMの目的・進め方
- ・団体紹介・講師経験談
- ・安心してディスカッションを行うためのルール作り（ディスカッション）
- ・世界にはどんな社会問題がある？（ワークショップ）
- ・子どもの権利条約を知ろう！（クイズ+講演）

初回の授業の後からは、各クラスでの活動が中心となります。それぞれのクラスでも、安心してディスカッションをするためのルール作りを行いました。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンが提供している教材・ワークショップを使い、これから複数の社会問題を学び・話し合い・自分の意見を育んでいきます。



PICK UP ②

タンザニアより来日したマサイ民族のレボイ君と出前授業を行いました。

2018年6月、マサイ民族のレボイ君タンザニアより来日。6月25日～28日の4日間、レボイ少年と共に都内の学校で出前授業を行いました。授業では、タンザニアやマサイ民族の文化について、日本の同年代の中高生にお話ししました。また、世界の教育の問題についての講演や、ワークショップも一緒に行いました。そして今回、レボイ少年の通訳は、高校1年生のメンバーが担当してくれました。



▶小学校：6 カ所 桐朋小学校、立川市立上砂川小学校、佐倉市立井野小学校、渋谷区立中幡小学校、工学院大学附属高等学校、野田市立山崎小学校

▶中学校：14 カ所

北杜市立泉中学校、横浜市立神奈川中学校、品川区立浜川中学校、横浜市立大綱中学校、國學院大学久我山中学校、明星学園中学校、町田市立真光寺中学校、世田谷区立桜丘中学校、関東学院六浦中学校、お茶の水女子大学附属中学校、横浜市立平楽中学校、神戸市立桜が丘中学校、横浜市立今宿中学校、佐倉市立井野中学校

▶中学・高等学校：2 カ所 ぐんま国際アカデミー中等部・高等部、滝中学校・高等学校

▶高等学校：18 カ所 青森県立野辺地高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校、東京都立大泉桜高等学校、公文国際学園高等部、アレセア湘南高等学校、田園調布雙葉高等学校、明治学院高等学校、FTC 部、横浜雙葉高等学校、鳥取城北高等学校、工学院大学附属高等学校、川崎市立橋高等学校、兵庫県立武庫荘総合高等学校、工学院大学附属高等学校、ノートルダム女学院高等学校、カリタス女子高等学校、大阪府立佐野高等学校、滋賀県立草津東高等学校、青森県立三戸高等学校

▶大学・専門学校：15 件

浦和大学、東洋大学、大阪女学院大学、明治学院大学、拓殖大学、大阪 YMCA 国際専門学校、神戸女学院大学、拓殖大学、明治学院大学、中央大学、上智大学、AIECEC、上智大学・慶應大学、大阪 YMCA 国際専門学校

▶その他団体、イベント：18 件 (別日程の重複イベントは 1 件とカウントしています。)

「世界食料デー」月間 2018・横浜市資源循環局、日本子ども NPO センター、国際協力 NGO センター、AIECEC、上智大学・早稲田大学、西宮市教育委員会、西宮市立南甲子園小学校、PTA、イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社、日本ファンドレイジング協会、世田谷区国際課姉妹都市中学生派遣事業、世田谷区教育委員会姉妹都市小学生派遣事業、グローバルチャレンジプログラム、五井平和財団 ESD 日本ユース「ユネスコスクール全国大会」分科会、風に立つライオン基金、高校生ボランティア・アワード 2018、中高生向けグローバルセミナー、子ども専門家アカデミー世田谷、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン×日本財団

Public relations and Events

イベント出店・物販・広報・資料開発

グローバルフェスタやワン・ワールド・フェスティバルなどに店出し、団体紹介や世界の子どもの現状を伝えるパネル展示、フェアトレード商品の販売を行いました。イベントではメンバーだけでなく、たくさんのボランティアさんに支えられブースの運営をすることができました。



◇ 2017 年度年次報告書

◇ ニュースレター年 3 回、

アニュアルレポート 1 回 600 部発行。

◇ メールマガジン月 2 回発行、登録者約 5,000 人。

◇ WEB ページは随時更新、1 日平均 620 アクセス。

PICK UP

マサイ族のお母さんの手作りアクセサリー /



ラフィキチェーン
¥1,350

大人にも、中学生にも大人気！ケニアのマサイ族のお母さん手作りのビーズラフィキチェーンです。長さが 120cm あるので、ネックレスにしたり、重ね付けてブレスレットにしたり、ヘアアクセサリーにしたり、自分好みにアレンジしてお使いいただけます♪これからの季節にぴったりのアクセサリーです。

これらの収益は We village で実施している海外自立支援事業の教育、水、保健、収入の機会拡大、農業と食料の 5 つの事業への寄附となります。オンラインストアより買い求めください。右記 QR コードよりアクセスいただけます。



▶ 自立支援事業

International programming

事業実施国一覧

貧困などが原因で権利を奪われ困っている開発途上国の子ども（特に、支援地域のフィリピン、インド、ケニアなど）の権利が守られ教育を受けられ自立できるよう支援しています。内容：フィリピン、インド、ケニアなどの開発途上国の子どもが貧困から解放され自立できるよう包括的な支援事業を実施しています。

フィリピン ..p12

<事業内容>

1. 先住民族の子どもへの教育支援
2. 性虐待や刑務所から救出された子ども教育支援
3. 障害者支援事業



インド ..p13

<事業内容>

1. 西ベンガル州 CCD マクタニール養護施設運営
2. 西ベンガル州ハロア開発地区子ども若者自立支援
3. ラジャスタン州貧困農村地域自立支援

ケニア ..p11

<事業内容>

ケニア深井戸建設及び給水システム確立事業



Kenya

ケニア

実施日時

通年

受益者数

1,200 人

実施場所

ケニアナロック群南ナロック県エシノニ村

深井戸建設及び給水システム確立支援

助成：TOTO 株式会社 水環境基金

支援対象地のエシノニ村には井戸がないために子どもや女性たち村人は1日に何時間も費やし、15キロ離れたところまで水汲みに行かなければなりません。また、半乾燥地帯の当該村は乾季に水不足に陥りやすいです。そこで、エシノニ村に暮らす1200人の村人がきれいな水にアクセスできるよう、深井戸の新規建設及び給水所を村内に設置し、今後、給水所を村人によって持続的に運営管理できるよう、村人の人材育成、研修を行いました。



▶ 自立支援事業

Philippines

フィリピン

先住民族の子どもへの教育支援

実施日時

通年

受益者数

4人

実施場所

フィリピン



手紙を通じて交流しながら子どもを支援する「文通プログラム」を通して集まった資金とその他寄付、助成金を使い、ミンダナオ島の台風被害にあった先住民族ビナンシャン村に暮らす中等教育を受ける年齢の子どもたちを対象にした教育支援を実施。これまで支援してきた子どもたちが中等教育を修了することから、支援終了次年度から別の地域を対象とする予定です。

性虐待や刑務所から救出された子ども教育支援

実施日時

通年

受益者数

200人

実施場所

フィリピン



指定寄付やフェアトレード商品の収益によって、フィリピン・ルソン島サンパレス州オロンガポに位置する現地パートナー団体プレダ基金を通して、性的虐待・搾取を受けた少女や、路上や刑務所から救出された少年への教育、貧困地域への水や農業面における自立支援活動の実施。

障害者支援

実施日時

通年

受益者数

フィリピン国立盲学校生徒 150人
及びナガ市高校生 1人

実施場所

フィリピン・日本

バサイ市の国立盲学校の寮修繕により寮が完成し竣工式を開催。また、視覚障害者の高校生5人をフィリピンから招聘し、約3週間日本で共生社会推進のための活動家として育成研修を実施し、その後のフォローアップを行いました。



フィリピン共生社会促進ヤングリーダー育成プログラム

フィリピンの障害者の権利が守られ、社会参加が実現されるためにフリー・ザ・チルドレンでは、フィリピンの視覚障害者の高校生5人を日本に招聘し、障害当事者自身が共生社会促進リーダーとして声をあげ社会へと働きかけができるよう育成する事業を8月15日～9月2日にかけて実施しました。

ヤングリーダーとして選考されたフィリピンの視覚障害者の高校生が、国内外の社会課題や、障害者権利条約や共生社会を実現するための知識、社会分析手法を学び、日本での取り組みや事例を知ること、フィリピンでの障害の社会モデルや共生社会を実現していくために彼らがどういった行動を起こすべきかを考える機会を提供しました。一番思い出深く、有意義なプログラムは何かと5人に聞いたところ、全員、「テイク・アクション・キャンプ!」だそうです。

19日間の研修では、たくさんの方に心温まるご協力を頂きました。特に、講師を引き受けてくださった皆さま、見学や訪問を受け入れてくださった施設の皆さま、キャンプ参加者やスタッフとしてサポートしてくださった皆さま、特に通訳してくれたカトリナ・プラットさん、松倉愛葵さん、本当にありがとうございました。また、FTCJ事務局スタッフ、JICA北海道に勤務しながらボランティアで本事業プロジェクトマネージャーを務めてくれた石田由香理さん、多大なる貢献と協力で感謝しています。最後に、5人の来日を実現するためにフィリピン側で協力応援して下さった、フィリピン国立盲学校のコラソン・サルバドール校長先生、ナガ市特別教育センター長のロベルトさんにも心よりお礼申し上げます。フィリピンでの障害者の社会参加へと向けて、これからもフリー・ザ・チルドレンではフィリピンの若者と共に考えていきたいと思っています。

India

インド

マクタニール養護施設運営支援

実施日時

通年

受益者数

マクタニール養護施設で生活する 22 人
貧困家庭の子ども 10 人

実施場所

インド



手紙を通じて交流しながら子どもを支援する「文通プログラム」を通して集まった資金やその他指定寄付を使って、現地パートナー団体を通じて、路上や児童労働などから救出され施設で生活する子どもと貧困家庭で暮らす子どもが学校に通え、栄養ある食事で健康に暮らせるよう事業を実施。具体的には支援対象者の子どもが学校に通うために必要な教育費（制服や教材文房具、ワークショップ教材費）や、食費の提供、健康医療支援プログラムのために支援金を活用しました。また、施設では美術や体育などの情操教育を通し、

ハロア開発地区子ども・若者自立支援

実施日時

通年

受益者数

西ベンガル州ハロア開発地区の
子ども若者約 200 人

実施場所

インド



助成：大阪コミュニティ財団

現地パートナー団体 CCD(center for Communication and development) を通じて西ベンガル州ハロア開発地区に暮らす貧困家庭の子どもや若者に対して、自立できるよう収入向上のための職業訓練セミナーを提供し、自立できるようセミナーを実施しました。

また、虐待や児童婚などの課題から子どもを守るために、子どもの権利を伝える子ども若者グループを育成、子どもの権利について勉強会を開き、地域の子ども及びおとなが権利についての知識を得る機会を作りました。

貧困農村地域 自立支援

実施日時

通年

受益者数

カルタナ村及びベルダラ村の人々
2,540 人

実施場所

インド



ラジャスタン州ラジサマンド地方農村地域では、降雨量が少なく半乾燥地帯のため、またインフラ整備も進んでいないため、農作物の収穫が伸びず、村人は現金収入が少なく貧困から脱却が難しい状況です。そこで現地パートナー WE Charity(旧 FTC インターナショナル)を通じて人々が貧困から抜け出し自立できるよう 5 つの柱(教育、水、保健衛生、生計維持、食糧農業)をたてて包括的に支援を行いました。

事業や建設をこれからも継続し、生徒たちにとってカルタナ村の小学校が、安全で勉強に集中できる場となり、充実した学校生活を送れる場となることを目指します。

会計報告

▶活動計算書

特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
全事業所

[税込](単位:円)

自 2018年1月1日 至 2018年12月31日

I 経常収益	小計	合計
1. 会費・入会金収入		
正会員会費	210,000	210,000
2. 寄付金・募金収入		
寄付金・募金	15,854,931	15,854,931
3. 助成金・補助金収入		
助成金	3,572,000	3,572,000
4. 事業収益		
自主事業収益	9,819,936	9,819,936
5. その他収入		
受取利息	146	
雑収入	72,232	
為替差益	9,667	82,045
経常収益合計		29,538,912
II 経常費用	小計	合計
1 事業費		
(1)人件費		
給料手当	8,813,084	
法定福利厚生費	1,250,429	
人件費計		10,063,513
(2)その他経費		
商品材料	393,511	
寄付・海外送金額	4,767,307	
旅費交通費	5,857,417	
印刷製本費	893,791	
通信運搬費	840,297	
広告宣伝費	179,746	
消耗品費	446,839	
業務委託費	2,600,741	
研修・施設会場費	277,990	
地代・家賃	1,135,536	
水道光熱費	155,064	
保険	61,300	
諸会費	104,500	
支払手数料	243,071	
為替差損	1,789	
雑費	37,964	
租税・公課	70,000	
その他経費計		18,066,863
事業費計		28,130,376
2 管理費		
(1)人件費		
給料手当	3,249,093	
法定福利費	138,936	
人件費計		3,388,029
(2)その他経費		
旅費交通費	137,148	
印刷製本費	146,165	
通信運搬費	159,505	
消耗品費	68,434	
研修・施設会場費	10,313	
地代・家賃	283,884	
水道光熱費	38,769	
諸会費	7,600	
支払手数料	25,344	
その他経費計		877,162
管理費計		4,265,191
経常費用合計		32,395,567
当期経常増減額		-2,856,655
期首商品棚卸高		-85,732
当期正味財産増減額		-2,942,387
前期繰越正味財産額		16,445,028
当期正味財産合計額		13,502,641

(注) 由特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

▶監査報告書

監査報告書	
フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	
特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	
代表理事 中島 孝典 様	
監査人 佐々木 孝典 様	
監査人は、特定非営利活動促進法(以下「法律」といふ)第28条第1項の規定に基づき、貴団体の2018年度(以下「会計年度」といふ)の収支計算書(以下「収支計算書」といふ)の監査を行いました。	
その結果、以下のとおりであります。	
1. 監査の結果	
監査の結果、貴団体の2018年度の収支計算書は、法律第28条第1項の規定に基づき、貴団体の2018年度の収支計算書(以下「収支計算書」といふ)の監査を行いました。	
2. 監査の結果	
監査の結果、貴団体の2018年度の収支計算書は、法律第28条第1項の規定に基づき、貴団体の2018年度の収支計算書(以下「収支計算書」といふ)の監査を行いました。	

▶事業費内訳

1.重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日NPO法人会計基準協議会)によっています。

同基準では、特定非営利活動促進法第28条第0項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

(1)棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は総平均法によっています。

2.事業費の内訳

事業費の区分は以下の通りです

自 2018年1月1日 至 2018年12月31日

科目	子ども主体	子ども関係関係	アドバナー	海外自立支援	外務部外務	合計
(1)人件費						
給料手当	0	2,316,494	4,930,646	1,298,624	265,320	8,813,084
法定福利費	0	362,602	696,763	159,802	31,262	1,250,429
人件費計	0	2,679,096	5,627,409	1,458,426	296,582	10,063,513
(2)その他経費						
商品材料	154,862	0	238,649	0	0	393,511
寄付・海外送金額	0	2,005,372	0	2,761,935	0	4,767,307
旅費交通費	4,424	3,360,346	1,016,933	1,432,413	43,301	5,857,417
印刷製本費	35,590	421,085	352,335	50,331	34,450	893,791
通信運搬費	30,000	305,765	416,103	78,253	10,176	840,297
広告宣伝費	0	17,090	456	162,000	0	179,746
消耗品費	7,636	377,575	50,859	8,979	1,790	446,839
業務委託費	0	172,000	2,020,271	0	408,470	2,600,741
研修・施設会場費	0	59,310	69,820	92,660	56,200	277,990
地代・家賃	227,107	227,108	227,107	227,107	227,107	1,135,536
水道光熱費	31,012	31,013	31,013	31,013	31,013	155,064
保険	0	5,210	0	56,090	0	61,300
諸会費	0	0	0	0	104,500	104,500
支払手数料	0	79,010	39,323	88,387	36,351	243,071
為替差損	0	0	0	1,789	0	1,789
雑費	0	26,832	11,132	0	0	37,964
租税・公課	0	0	70,000	0	0	70,000
その他経費計	490,631	7,087,716	4,544,201	4,990,957	853,358	18,066,863
事業費計	490,631	9,766,812	10,171,610	6,449,383	1,249,940	28,130,376

▶貸借対照表

特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

[税込](単位:円)

全事業所

2018年12月31日 現在

科目	金額	負債・正味財産の部	金額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払金	2,007,910
現金	291,888	預り金	348,127
小口現金	192,944	流動負債計	2,357,037
普通預金	14,145,381		
外貨	107,878	正味財産の部	
現金・預金計	14,738,091	【正味財産】	
(売上債権)		正味財産	13,502,641
未収金	777,499	(うち当期正味財産増減額)	△ 2,942,387
売上債権計	777,499	正味財産計	13,502,641
(棚卸資産)		正味財産の部合計	13,502,641
商品	254,694		
棚卸資産計	254,694		
(その他流動資産)			
立替金	69,864		
流動資産合計	15,840,148		
【固定資産】			
(無形固定資産)			
電話加入権	19,530		
無形固定資産計	19,530		
固定資産合計	19,530		
資産の部合計	15,859,678	負債・正味財産の部合計	15,859,678

▶財産目録

特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

[税込](単位:円)

全事業所

2018年12月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】			
(現金・預金)			
現金		291,888	
小口現金		192,944	
中島小口現金		(8,690)	
イベント用小口現金		(87,225)	
大塚小口現金		(117,029)	
普通預金		14,145,381	
UFJ銀行		(1,219,277)	
ジャパンネット銀行		(366,555)	
みずほ銀行		(1,709,622)	
郵便銀行		(268,140)	
郵便振替		(264,225)	
郵便銀行海外送金用		(31,455)	
paypal		(285,014)	
UFJアクションキッズ		(1,093)	
外貨		107,878	
フィリピンペソ		(16,309)	
インドルビー		(5,086)	
トルグルグ		(4,430)	
カナダドル		(19,365)	
USドル		(54,114)	
ケニアリング		(8,574)	
現金・預金計		14,738,091	
(売上債権)			
未収金		777,499	
売上債権計		777,499	
(棚卸資産)			
商品		254,694	
棚卸資産計		254,694	
(その他流動資産)			
立替金		69,864	
その他流動資産計		69,864	
流動資産合計			15,840,148
【固定資産】			
(無形固定資産)			
電話加入権		19,530	
無形固定資産計		19,530	
固定資産合計			19,530
資産の部合計			15,859,678
《負債の部》			
【流動負債】			
未払金		2,007,910	
預り金		348,127	
流動負債計		2,357,037	
負債の部合計		2,357,037	
正味財産			13,502,641

ご支援・ご協力いただいた団体・企業さま

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの活動へのあたたかいご支援、ご協力に、心より感謝申し上げます。
ご支援・ご協力をいただいた皆様を順不同でご紹介させていただきます。(2018年12月28日付)

助成金

公益財団法人 大阪コミュニティ財団、公益財団法人 電通育英会、東京都労働局、東京都労働相談情報センター、公益財団法人 三菱UFJ国際財団、連合・愛のキャンパ、IT導入補助金、認定NPO法人国際協力NGOセンター、一般財団法人H2Oセンター

寄付・協賛協力

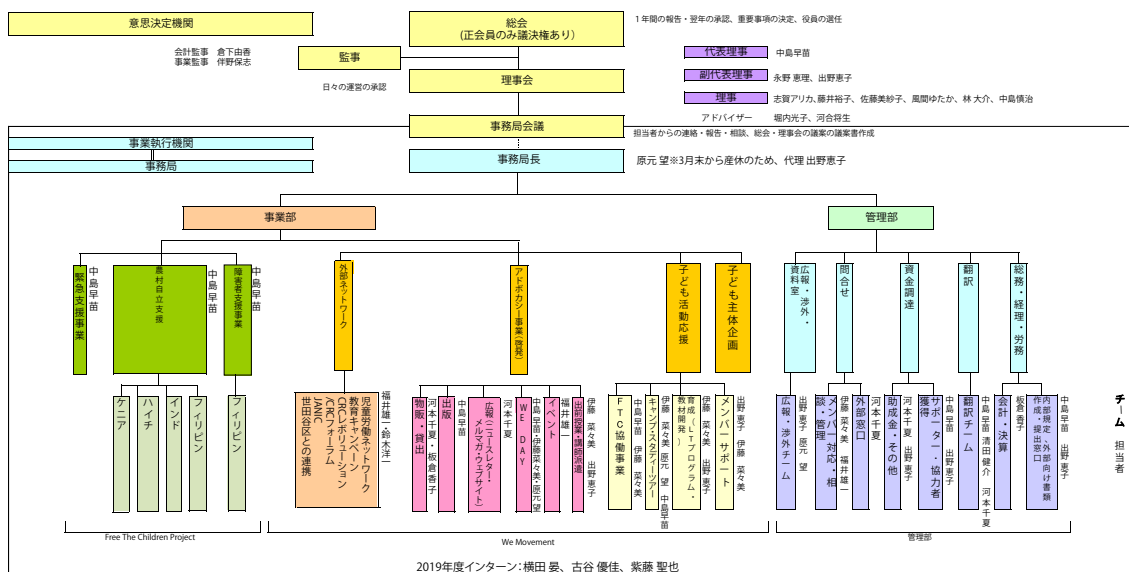
株式会社 チョダ、株式会社 一三工業所、武蔵野牛乳食品株式会社、TMコミュニケーションサービス株式会社、gooddo株式会社、ソフトバンク株式会社、一般社団法人日本エンパワーメントコンソーシアム、株式会社 ブギ、日本パプテスト厚木教会、厚木幼稚園、徳島県立富岡東高等学校2年ESD研究グループ、ノートルダム女学院高等学校、横浜市立中川小学校、橋本市立あやの台小学校、沖縄水産高等学校、加藤学園暁秀中学校、学校法人桃山学院、桃山学院高等学校、相模原市立相原中学校、市川学園市川高等学校、横浜市立平楽中学校、加藤学園暁秀高等学校、駒沢学園女子中学校高等学校、工学院大学附属高等学校

活動協力 千鳥屋絵本家株式会社 そのほか、個人の方々から多くのご支援をいただきました。

メディア掲載

中学生公民教科書、英語教科書 ONE WORLD、佼成新聞 DIGITAL、大阪日日新聞、まにら新聞、NTT 労組(新聞)、α-yus、読売中高生新聞、国際開発ジャーナル、児童労働・NGO/NPOのチャレンジ、JCNC ブックレット発信するチカラ、点字毎日、東京新聞、東洋英和女学院大学大学院のWEBサイト、東京新聞、財経新聞、産経ニュース、Cube ニュース、開発教育協会(DEAR)会報誌、ニコニコニュース、朝日新聞、東京新聞、世界の社会福祉年鑑2018〈2019年度版〉18集、TOTO株式会社機関紙、東京グレートサンタラン(TV 9件、新聞 21件、雑誌 2件、WEB 496件)株式会社三井住友フィナンシャルグループ環境情報誌 JUNIOR SAFE 第4号(2019年版)

組織図・概要



特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
設立年月: 1999年1月1日

法人格
2004年9月21日東京都より「NPO法人」認証
2012年3月16日国税庁より「認定NPO法人」認証
2017年3月13日東京都より「認定NPO法人」認証
法人格: 特定非営利活動法人

事務所所在地
〒157-0062 東京都世田谷区南鳥山6-6-5 3F

代表者: 中島 早苗

メンバー数: 1,137名、正会員数: 28名

役員・顧問役員: 12名(理事10名、監事3名)、

アドバイザー2名

事務局員: 専従スタッフ6名、非専従スタッフ2名

インターン3名、事務局ボランティア5名、

翻訳ボランティア25名

2018年度役員一覧

代表理事 中島 早苗
副代表理事 永野 恵理
副代表理事 出野 恵子
理事 志賀 アリカ
理事 藤井 裕子
理事 佐藤 美紗子
理事 羽仁 カンタ
理事 風間 ゆたか
理事 林 大介

会計監事 宮島 珠

事業監事 伴野 保志

アドバイザー

堀内 光子 (ほりうち みつこ) 氏

労働問題や女性の権利の分野での研究・専門家。
文京学院大学大学院特別招聘教授及び公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム 理事長、地球憲章国際審議会委員、児童労働ネットワーク 代表。
2006年よりフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの顧問として活動をサポート。

河合 将生 (かわい まさお) 氏

NPO・NGOの組織基盤強化やファンドレイジング、マネジメントのコンサルタントや、組織の協働・連携のコーディネート及び国際協力やキャリア育成に関する相談・講演を行う office musubime の代表

TOGETHER WE WILL *change the World*

特定非営利活動法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 6-6-5 3F

TEL : 03-6321-8948

info@ftcj.com www.ftcj.com

★フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、2017年3月13日、都庁よりの認定NPO法人として認定されています。

これにより、当団体に対する皆さまからの寄付・募金は「特定寄附金」とみなされ「寄附金控除」の対象となります。詳しくは団体ウェブサイトをご覧ください。